

—あおぞら—

青空の目標

環境省 水・大気環境局 大気環境課長
是澤 裕二

愛媛県南部の山間の町で育った。自宅のある集落の裏山に登ると、みかん畑の下に海が広がり、さらに遠く九州を臨むことができた。視程の良い日には、豊後水道の向こう側、大分県にある製錬所の煙突を見ることができ、青空が澄んでいることを確認する目標として子供達に注目されていた。良く晴れた日に山に登り、海の彼方の煙突が確認できると、何やら得をした気分になったものである。

越境大気汚染の影響や黄砂の飛来頻度の増加が指摘されている昨今、私の子供の頃と比較すると、煙突の見え方も変わっているかもしれない。一方で、大気中の浮遊粒子状物質濃度は、1970年代と比較すれば大幅に改善しており、その効果が現れていることも期待したい。近くに气象台等もなく、参考になりそうなデータが得られないのが残念である。

澄んだ青空の観察目標として、日本で最も注目されているのは、富士山ではないだろうか。Web上でも、東京都が庁舎から富士山が見えた日の統計を紹介されているのをはじめ、多くの方が富士山の見え方に注目されていることが確認できる。気象条件等を含めた考察が必要であるが、ここ30~40年の間に東京から富士山が見えた日数は着実に増加しており、大気汚染対策が進んだことを実感できるデータとして大変興味深い。

さて、近年、北京市など中国の大気汚染に関する報道を目にすることが増え、社会的な関心も高まっている。マスコミの報道が増えているため、中国の大気汚染は年々悪化しているのだろうと考えている人が多いのだが、北京市によるモニタリング結果によると、長期的には改善傾向にある中で、ここ5~6年は足踏み状態にあり、同じような汚染レベルが続いているという状況のようだ。私が北京で生活していた2006~2008年頃も、粒子状物質などによる大気汚染はかなり劣悪な状態にあった。冬季に粒子状物質の濃度が高くなった日には、太陽を直視してもまぶしくなく、輪郭がはっきり見えるため、北京では太陽が月のように見えると揶揄されていたものである。

各国の首脳が北京に集まった2014年11月のAPEC(アジア太平洋地域経済協力)首脳会議の際にも、大気汚染の状況が話題となった。ナンバープレート規制による交通量の大幅削減や、9千社を超える企業の生産停止などの対策が功を奏したのか、APECブルーと称される青空が広がった。一時しのぎの対策であると批判されているようだが、一時的な対策が継続的な対策の基礎やきっかけになることもあり、あまり否定的に捉えるべきではないと思う。

APECの際に行われたナンバープレート末尾の数字(偶数か奇数か)によって隔日で車の使用を制限する交通規制は、北京オリンピックの時以来と報道されていたが、北京市では、オリンピック後も継続して、ナンバープレート規制が実施されてきた。月曜日から金曜日までの曜日毎に、ナンバープレート末尾の数字(0から9まで)を二つずつ割り当て、週に一日、該当する車の使用を規制する方法である。オリンピックを契機として、市内中心部の交通量規制が継続されてきたものだ。また、北京オリンピック前には、市内のあちこちのガソリンスタンドを一時閉鎖し、改修工事を実施している様子を目にした。明確に確認することはできなかったが、夏場の光化学オキシダント対策としてVOC対策を強化していた模様であり、現在、北京市内のガソリンスタンドには全て燃料蒸発ガスの回収装置が設置済みとされ、日本よりも対策が進んでいる。

中国では、2014年3月に開催された全国人民代表大会(日本の国会に相当)において、李国強首相が「(環境)汚染に宣戦布告する」という表現で徹底的に大気汚染対策に取り組むことを表明するなど、政府として対策を強化する強い決意を示している。2014年4月に開催された日中韓三カ国環境大臣会合では、大気汚染問題が最重要課題として議論され、三カ国間で政策や優良事例の交換、削減技術、評価手法等に関する協力を進めていくことが合意された。中国国内の大気汚染物質の排出源は膨大であり、問題の解決は容易ではないが、東アジアにおける清浄な大気の共有を目標に、我が国としても、政策対話や日中両国の都市間の連携協力事業を進めていくこととしている。関係各位のご支援とご協力をお願いしたい。

なお、昨今、特に注目を集めているPM_{2.5}対策については、国内における排出抑制対策も重要であることを忘れてはならない。定量的な評価には限界があるため、今後さらに現象解明等に取り組む必要があるが、関東などでは、国内の発生源の寄与率が5割以上を占めているとの指摘もある。光化学オキシダント対策としての排出削減も含めて、一層の取組を考えていきたい。

余談ながら、日本を訪れる中国人旅行者にとって富士山は非常に人気の高い観光スポットである。研修や出張で東京に短期滞在していた中国人の同僚や知人からも、週末に静岡や富士五湖まで富士山を見に出かけたという話を聞いた。都内の観光地よりも、富士山を一目見る方が魅力的だったらしい。中国でも、富士山のような青空の観察目標を見つけてほしい。そして、大気汚染対策が進展し、中国各地で青空の目標を確認できる日が増えることを願っている。